

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2002. 5. 22

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）倉橋（西大寺南小）田辺（津島小）福井（伊島小）

サイエンスフィールドに入ってまず目につくのが、天秤や滑車が組み合わされたオブジェ(?)。重心とかトルクとか力の釣り合いとか、そんな難しいことは言わなくても見ているだけで面白い。奥には色々な植物が三角フラスコにさしてある。子供達がやってきて興味を示すならそれでよし、示さなければ、次は発根させるか染色材を入れて吸水させるかして、再び子供の反応を待ってみるのだ、と石浦先生。決められた学習内容を一定の時間で消化しなければならない学校の理科と違い、ゆったり構えて子供の出方を見て、次の一手を考えていく。何だかジャン・ジャク・ルソーの『エミール』のようで教育の原点を見るようです。私は日常の忙しさの中で正しい結果ばかりを追い求めるような授業をしているな、と反省しました。

【キアゲハ】石浦

今、サイエンスフィールドには2種類のカミキリムシとキアゲハの幼虫がいます。アゲハの仲間は柑橘系の樹木にいるものだとばかり思っていたけどキアゲハはセリの葉にいるんですね。成虫の美しいキアゲハだけど、幼虫も色鮮やかできれいです。

【炭酸抜けま栓】高松

断熱膨張による雲発生実験に使える『炭酸抜けま栓』ですが、キティちゃんバージョンが安価(300円)で売られていたそうです。

【フラッシュモーションキーホルダー】高松

フラッシュモーションというキーホルダーが100円ショップに売られていたそうです。ひもを引くと中のイラストが刻々と変わります。色から見ると偏光板を使っているような感じですが、イラストの変わる方向が回転方向とは違うので、モアレ模様を使っているのかもしれませんが、さて、どちらでしょうか？

【植物調査隊】田辺

昨年度、田辺先生が研究してこられた『植物調査隊』ですが、いよいよ8月27日の初等理科夏季研修会で発表されることになりました。今月末に国際交流の発表もあり大忙しですね。

【書籍紹介・紙飛行機博物館】倉橋・福井

『よく飛ぶ立体折り紙ヒコーキ』戸田拓夫、二見書房

折り紙飛行機の戸田拓夫さんは福山市に紙ヒコーキ博物館を作られているそうで「ここはお勧めですよ」とは倉橋先生の弁。

もう1冊の『ふわふわ不思議紙ヒコーキ』永松光洋、二見書房、という本は以前に高松先生が紹介してくださいました浮羽ウイングのもので、薄い発泡スチロールの紙(?)もついています。福井が紹介したのはNHK教育のテキストで、趣味悠々『あなたもできる天気予報入門』(火曜日21:35~22:00)と『大人が遊ぶサイエンス』(水曜日21:35~22:00)です。天気予報やサイエンスが趣味講座になるなんていいね。

